

# 古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

## 東照宮祭礼

仙台市博物館 学芸員 水野 沙織

### 第9回

#### 仙台城下の東照宮祭礼

江戸時代の仙台城下で最大の祭りといえ、**「仙台祭」**とも呼ばれた東照宮祭礼です。盛大な渡物（山車）行列が主役のこの祭りには、城下だけでなく仙台藩領内外からも老若男女が大勢見物に訪れました。東照宮は承応三年（一六五四）、二代藩主伊達忠宗によって造営された徳川家康を祀る神社です。祭礼は農繁期を避けた九月一七日（家康の命日）を祭日とし、造営の翌年から開催されました。祭礼の開催は隔年や、二年連続して一年休む周期で行わ

れ、藩主の死去や飢饉により延期になる年もありました。幕末の混乱期には開催が見送られますが、渡物を伴う形式の祭礼は明治四年（一八七一）の天長節（天皇の誕生日）に再開されました。

#### 東照宮祭礼の「渡物行列」

渡物行列は、町々や有力商人が出す渡物と、東照宮の神輿行列に足軽を率いた藩士の行列が前後に供をする構成で、日の出と共に東照宮を出発し、夕刻まで城下町を練り歩きました。『仙台年中行事絵巻』には四枚にわたってその様子が描かれています。嘉永三年（一八五〇）と推定されるこの行列絵には、町中から出された計三三台の渡物が東照宮の神輿の前に見えます。渡物は「大江山の鬼退治」や「孟母三遷（孟子の母の教え）」といった日本や中国の故事などを題材としました。祭礼時には渡物を描いた木版画が販売され、

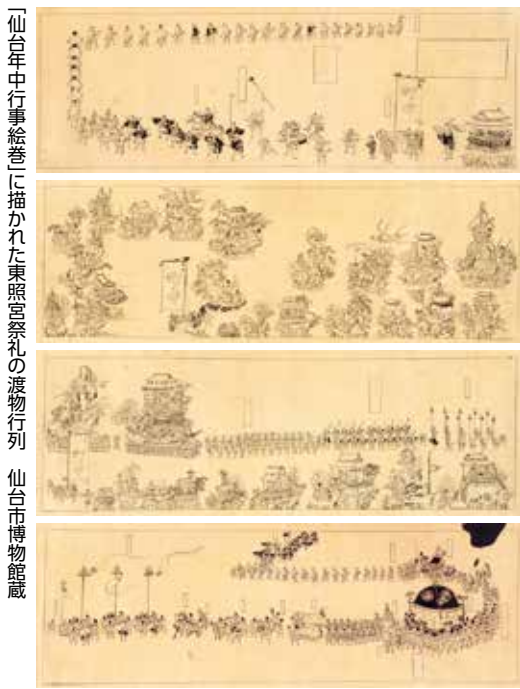
土産品として人気があったようです。

#### にぎやかな祭りの場

仙台城下では、大きな寺社の祭礼・神事の時に限って芸能興行が特別に許可されていました。東照宮でも、九月一七日の神事に合わせて相撲や腰に人形を付けて演じる操芝居、軽業などの小見世物の興行がありました。相撲は、江戸の力士たちが巡業に訪れることもあり、嘉永三年には東照宮の門前町である御宮町で仙台藩領本吉郡出身の大関秀ノ山が土俵に上がったようです。そのほか藩領北部の商人が麻や真綿などの商品を持って御宮町に集結して問屋商売をするなど、集客に合わせて商売も盛んでした。

このように東照宮祭礼中の仙台城下は渡物行列の見物客、芸能興行の観客、商人と客、大勢の人々が群集するにぎやかで娯楽に満ちた空間でした。経済効果も抜群。今も昔も祭りを楽しむ人々の様子は変わらないようです。

紙面で紹介した東照宮祭礼の関係資料は、仙台市博物館の常設展で九月一八日から十二月二七日まで展示しています。ぜひご覧ください。



「仙台年中行事絵巻」に描かれた東照宮祭礼の渡物行列 仙台市博物館蔵

た木版画が販売され、



秀ノ山雷五郎 三代歌川豊国画 仙台市博物館蔵 ※展示期間9月18日～11月10日

企画展予告 仙台市市制施行130周年記念

## やっぱり絵図がすき！

—博物館で旅する仙台藩と城下町—  
会期:10月11日(金)～12月1日(日)

あなたの今いる場所が昔はどんな場所だったか、知りたいと思ったことはありませんか？  
本展では、仙台城下絵図や村絵図など江戸時代の「仙台」を描いた絵図、仙台藩領を描いた国絵図や、世界を描いた坤輿万国全図など多彩な絵図を紹介します。

【観覧料】常設展料金でご覧いただけます。  
一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)  
※30名以上の団体は( )内の料金。このほか各種割引があります。



奥州仙台城絵図(部分) 正保2年(1644)頃 仙台市博物館蔵

#### ◆イベント情報◆

水玉模様の陣羽織を着てみよう  
9月16日(月・祝)、10月6日(日)

9月10日から常設展で展示される伊達家伝来の「水玉模様陣羽織」の複製資料を羽織って記念撮影してみましょう！

【実施時間】  
13:30～15:30  
※受付は終了10分前まで  
【会場】企画展示室前  
常設展観覧券が必要  
水玉模様陣羽織  
仙台市博物館蔵



仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

TEL:022-225-3074 ▶9月の休館日 毎週月曜日(16日、23日は開館)、17日(火)、24日(火)

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai\_shihaku ▶博物館HP ▶仙台市博物館

検索